

## 平成25年度 看護部事業計画 院内研修結果一覧表

教育目的: 看護部職員一人一人が責任ある良質な看護が提供できる

教育目標: ①専門的知識、技術、態度を高め実践能力を養う

②POS記録システムを活用し個別性を尊重した看護が展開できる

③問題解決能力、指導能力を高められる人材を育成する

④チェックリスト、看護基準を全スタッフに浸透し統一した看護、指導ができる

⑤一人一人が主体性を持って生き生きと看護活動にのぞめる

研修名	日時	対象者	参加者	ねらい	担当・講師	評価
接遇マナー DVD視聴	4月23日・30日	看護・介護・リハビリ	看護職員 28名 介護職員 12名 リハビリ職員 18名	研修参加者からの伝達講習	介護福祉士 2名	概ね好評であった。DVDで実際の対応などを見て、自分の状況に置き換え振り返る良い機会となった。
カルテの綴じ方	5月 教育委員会	医事課・看護部	医事課職員 2名 看護部職員 7名	医事課と看護部長・師長教育委員が綴じ方について統一し、サンプルを作成。各病棟に伝達。	高取師長 小林課長	①医師②検査各処方箋③リハビリ④看護⑤その他で分類し、入れ込む基準を決めた。病棟刊での項目を統一した。現在はスムーズに行えている。
手洗い実習①「感染委員会」	5月 各部署	全職員	参加者総勢 114名	手洗いの基本的な実践を全職員に浸透させる	各部署感染委員	今年度より、各部署で実施。実施率95%で効率的であった。爪に残しが多く、2度新井での合格者は10%(参加者の)
トランスファー講習会	6月26日(水)	看護・介護・リハビリ	看護職員 21名 介護職員 8名 リハビリ職員 14名	安全・安心なトランス方法を実践で学ぶ	PT OT	沢山の希望があり、2年ぶりに開催。具体的トランス方法をPT、OTより指導してもらい、より安全なトランスを行えると好評であった。
標準予防策 {感染委員会}	7月26日(金)	全職員(法人全職員)	参加者 92名	外部講師 感染認定看護師による研修会	横浜南共済病院 感染認定管理者	外部からの講師を招いての研修で、病院、クリニック、訪問看護ステーションからの出席があった。手指消毒や標準予防策の重要性を学べた」という感想が多く満足度も高かった。
医療安全研修会 (AED使用について)	8月 8日(木)	全職員	管理者 14名 看護・介護職員 25名 リハビリ職員 18名	急変患者の対応。	医療安全管理者	除細動器は専門分野であったので看護職員には好評であった。AED器への使用変換や使用法BLSが必要時出来る知識が得られた。急変時対応に活かしていける事を学んだ。
インフルエンザ・ノロウイルス 感染防止対策 {感染委員会}	10月15日(金) 10月30日(水)	全職員	参加者 80名	研修会後、吐物処理の実践を行う。	感染委員会副委員長	「吐物処理の実践が出来、手順の再確認が出来て良かった」との声が多かった。アンケートでの満足度も高く好評化だった。
看護記録POS方式の講習会	11月16日(土)	看護部全職員	看護職員 34名 他部署職員 1名	POS記録システム導入後、現状の記録のとらえ方でよい学びたい。	外部講師 岩木総看護部長	アンケート考察から、9割以上の看護職員から看護記録の重要な意義を学んだ。との評価が得られた。
看護協会受講者伝達講習会 院外伝達講習会	12月16日(月)	看護・介護・リハビリ	看護職員 20名 介護職員 1名 リハビリ職員 1名	研修で得られた知識・技術・情報を伝えることにより職員間が共有し、研鑽することができる	看護師発表者 濱田・古屋・熊澤	今回は事前に資料を配布し、ポイントのみ発表という方法を取り入れる。研修の発表内容は時間も含め概ね好評。講習会当日までに資料に目い通ししやすい工夫が必要で次回改善していきたい。
診療報酬改定について	3月25日(火)	全職員	職員 総勢 31名	平成26年度診療報酬改定を知る	中村事務長 小林課長 高工係長	今後病院としてはどの方向に向かっていくかが検証できた。あくまでも患者さんを在宅に戻す国の方針が今回の診療報酬改定で明らかになったことが再確認できました。

▶ 開催日は諸事情により予定日と異なる場合があります。変更時は事前にお知らせいたします。

▶ 上記がい、各委員会等での研修・講習が実施される場合もあります。

▶ 事前に「開催のお知らせ」を掲示しますので、各自出欠席を記入してください。